

佐世保市教育委員会の自己点検及び評価について

はじめに

教育基本法及び教育 3 法の改正は、教育委員会の責任体制を明確に謳っていて、地域住民の代表である教育委員会のメンバーが、該当地域の教育方針の策定から予算の管理・執行まで説明責任を果たし、毎年、委員会の活動状況や管理・執行した事務活動、委任した事務活動等の自己点検・評価を行わなくてはならなくなっている。

裁判員制度をはじめさまざまな場面で地域住民の主体的な活動が求められている。地域住民の主体的な活動なくして健全で安心できるまちづくりはありえないというコンセンサスを基に、新しい時代に向けた地域住民個々の民主的な生き方教育の先駆けが、教育委員会のメンバーに求められているのである。責任を持つことがすなわち生涯教育となる政策が、まずは教育委員会や教育に関係する分野から始まったといえよう。

「佐世保市教育委員会の自己点検及び評価」は、本年度で 2 年目になる。本年度の「自己点検と評価」は昨年度の「自己点検・評価」に対する反省を基に内部評価したものとなっている。本外部評価も、与えられた内部評価資料に添った外部評価を行うが、さらにあるべき姿の視点からも述べていきたい。

I. 内部評価結果（総括）に関して

内部評価にあるとおり、平成 20 年度の活動については、平成 19 年度の「自己点検・評価」の指摘を真摯に受け止めた活動状況であり、委員各自の責任の顕示が見て取れる。

特に、教育委員会会議の議事を活発に行うために事前に送付された資料への目通しを行い、委員会活動で最も大切な会議活動に力を入れるようすは議事録から知ることができる。また欠席がほとんどみられないところからも委員の責任感が見て取れる。

さらに、本年度は「出席努力」と「自主判断」という 2 種の参加形態を委員が主体的に取り決めて、さまざまな行政主催の行事及び研修会等へ参加したそうで、その成果は、全体の行事及び研修会等への参加回数の伸びに結びついている。

加えて、定例委員会議事録を委員会ホームページに掲載し、教育委員会活動を公開したことは委員としての責任ある活動を自ら公表しているところであり、なによりも評価できる点である。

本年度の委員会活動は前年度の「自己点検及び評価」を受けた後の年として著しく成果が上がっている。その意味では「佐世保市教育委員会の自己点検及び評価」元年と呼ぶに

ふさわしい。

やや残念なことは、一次データの検証性のしづらさであった。一般の地域住民が見て検証できるデータ作りの工夫が必要となろう。

Ⅱ. 教育委員会の活動状況（評価シート①）に関して

評価シート①に関しては、自己評価のとおりであり、昨年度と比べると、申し分のない数値となっている。特に「教育委員の自己研鑽」として研修等に参加している数値の高さが顕著である。昨年度（71人）より延べ人数で21人も増えていて、一人当たりの参加行事が5回増えたことになる。これは、行政主催の行事でもいえることである。昨年度（126人）より延べ人数で58人増えていて、一人当たりの参加行事が15回増えたことになる。

このように委員各自の努力はその数値に見て取れるのだが、その学校訪問¹⁾にも委員の責務が見て取れる。佐世保市教育委員会にとって、重要事項である「心の月間見学」などに積極的に出かけている。幼稚園は7園中1園、小学校は46校のうち25校を訪問（54%）していて、延べにすれば74%の訪問数になる。中学校は、26校のうち18校訪問（69%）していて、延べにすれば96%の訪問数になる。これは、次代を支える青少年教育の大切さを知る委員の活動といえるし、学校訪問をはじめ委員が選ぶ自己研鑽先の妥当性は委員の見識の高さを物語っているといえよう。

また、本年度は、予算の仕組みを知るための学習会を事務局に願い出るなど、積極的に教育委員に課せられた職務を全うするための技能を高める努力を行っていて、データ上に表れていない影の研鑽がなされているとみられる。

今後、さらに委員会活動を促進させるために考慮すべきことは、委員会HPを充実することだろう。現HPをみると、「教育長のあいさつ」のバーナーはあるが（情報はなし）、「教育委員長のアいさつ」はない。どちらもあるべきだし、「委員」の紹介、「学校訪問後の感想」等、委員会活動（委員の言動）が公開されることが望ましい。保護者や地域住民の代表たる委員会の活動はもっと公開されるべきだし、そうあってこそ地域住民の切磋琢磨による成長が顕在化し、市民全体（学校・家庭・地域社会）が一体となった学びの社会の実現に近づくのであろう。

また、親しみのあるHPの充実は、市民の関心を引き傍聴者の増加につながっていく施策のひとつになるはずである。もちろん、会議開催日程や各学校の行事等年間スケジュールの掲載は必須事項である。委員会議事録などもできる限り速い掲載が望まれる。

Ⅲ. 教育委員会が管理・執行する事務（評価シート②）に関して

昨年度の外部評価に対する回答がみごとに顕在化している。昨年の指摘は、1. 委員会での議論の深まり 2. 議題と協議事項の区別 3. 委員の主体性の明確化の3点であるが、ど

の指摘に対しても1年間の委員会で十分な回答を出し、克服している。

ただ、昨年度の内部評価に地域の課題把握、議会の議決案件等の関係で、関連諸団体や首長との意見交換が積極的になされなかったとあるのだが、その点は本年度の内部評価では触れられていない（評価シート①で首長の件はある）し、やや不活発だったのではないだろうか。

しかしながら、今年度は、「佐世保市教育振興基本計画」の策定という大きな作業があり、本年度の内部評価にあるとおり、「教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針を定めること」の協議に力が削がれたことから、上記の不足点は十分にカバーされてしかるべきであろう。

さらに、本年度の委員会の検討件数は前年度に比べ22%増であることから、時間的にも多くの労力が費やされていることがわかる。そのうち、「教育振興基本計画の策定について」や「教育委員会の自己点検及び評価について」に関する件数が12件あり、平成18年度の教育基本法の改正、平成19年度の教育3法の改正による「教育委員会の責任体制の明確化」による仕事が着々となされている。佐世保市教育委員会は、法の改正を真摯に受け止め、難しい時代の「教育のあるべき姿」を追求している生みの苦しみにあるとはいえ、「教育委員会が管理・執行する事務（評価シート②）」も十分に評価できる。

IV. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務（評価シート③）に関して

評価シート③には、85の事務事業が掲載されているが、そのうちに平成21年度からの新規事業で未評価件数が3件あり、内部評価がなされているのは82事業であった。それらは、20年度の決算、対象、手段、目的、内部評価、成果指標名、成果指標（目標）・成果指標（実績）が19年度指標とともに記されていて、その成果指標からみると、実績が下回っている事業数は8つだけである。これは、91%の事業が目標値と実績がほぼ同値（数%下回っているものは同値と考えられる）となっていて、目標設定と仕事の確かさを証明している。つぎに、実績が下回っている事業についてみてみよう。

表1は実績が下回っている2つの事業である。しかしこれらも、19年度の成果指標を上回る実績を出し、それぞれ、88.9%、78.8%の達成度であり問題にはならない。事業内容によって、成果は急に上がるものもあれば、時間をかけなければならぬものもあるであろう。

表1

	事務事業名	成果指標名	19年度	20年度
1	小学校情報教育推進事業	パソコンが指導できる教職員の割合	71%	80%
2	中学校情報教育推進事業	パソコンで指導できる教職員の割合	61%	63%

（「評価シート③より作成」）

ただ、表2にある下記の事業については、さらに対策を練るべく対応が図られねばなら

ないであろう。急務な要請を含んだ課題を有している事業である。

表 2

	事務事業名	成果指標名	19 年度	20 年度
3	いじめ・不登校対策事業	不登校児童生徒の減少率	△4%	△29%
4	子どもの安全対策事業	子ども事故発生の減少率	32%	△16%

(「評価シート③より作成」)

これらは、現代社会の深刻な青少年問題が佐世保市にも現出していることを端的に表している。成果指標の下回りは気になる数値であるが、その点についても、つぎのようにすでにしっかりと自己評価が内部でなされている。

表 3 は、この 2 事業の事業費（トータルコスト：事業費＋人件費）見込み表からの抜粋である。この表 3 からわかることは、緊迫財政のおりであっても、内部評価の結果を誠実につぎの事業に生かそうとしている姿勢である。

表 3

	事務事業名	20 年度決算額	21 年度	22 年度	掲載ページ
3	いじめ・不登校対策事業	3,554	3,646	4,662	p. 51
4	子どもの安全対策事業	3,964	4,020	4,990	p. 111.

(『評価シート③資料 事務事業評価表』より作成)

「事業費見込み」は、『評価シート③資料 事務事業評価表』(pp. 1-340)に掲載されている。これは、それぞれの事業ごとの「平成 21 年度の事務事業評価・改善シート」を集めたもので、85 の事務事業の全てにわたって、「1. 事務概要」「2. 前年度の実績」「3. 評価・課題分析」「4. 事務事業を取り巻く環境変化と市民の意見」「5. 事務事業の改善計画」の項目ごとに詳細な小項目ごとの問いと答えでできあがっている。それぞれの事業の 3 ページにわたる詳細な内部評価となっている。

つぎに、実績が下回っている事業数の残りの 4 つを表 4 にまとめた。これらは、生涯学習系の事業である。これらもすべて 70%以上達成されていて、それぞれの内部評価も妥当であり、「教育コミュニティーづくり」、「学びの社会づくり」「生涯学習による町づくり」という施策に向けた活動はすでに始まっていて、それほど危惧する状況ではない。

表 4

	事務事業名	成果指標名	19 年度	20 年度
5	青少年教育事業	健全育成事業への参加者数	830 人	530 人
6	生涯学習推進事業	生涯学習推進事業の総受講者数	6,508 人	4,855 人
7	生涯学習支援事業	地区生涯学習推進会が実施する補助対象事業の参加者数	80,920 人	74,631 人
8	視聴覚ライブラリー運営事業	視聴覚ライブラリー利用件数	304 件	271 件

(「評価シート③より作成」)

平成 20 年度の事務事業の成果指標の達成度の低いものは、「平成 21 年度の事務事業評価・改善シート」によれば、「不登校児童生徒の減少率（50%）」（『評価シート③資料 事務事業評価表』p. 50.）「子どもの事故発生の減少率（57%）」（同上 p. 109.）であり、抜きんでて高いものは、「補導率（177.6%）」（同上 p. 165.）、「有害図書陳列等に関して指標を要する店舗率（175%）」（同上 p. 169.）、「教育相談対応延べ人数（160.4）」（同上 p. 65.）であった。達成度が低い事業は表 2 で述べたとおりである。達成度が高いものは、この達成度の高さがそのまま喜べるものではないと思える。不良行為や少年犯罪などが即、補導と結びついているものばかりではない。有害図書に関してはさまざまな問題があり難解であろう。相談人数は少なければ少ないほどいいはずである。もちろん、指標の達成は望ましいことではあるが、つぎの目標数値設定がそのまま（同上 p. 167. p. 171. p. 67.）であることに課題が残っている。

不登校やいじめを減らし、青少年を非行や犯罪から守り善導するという「青少年の健全育成」の目的から考えると、新しい施策になる「徳育」「読書推進」などとともに事業を進めていかねばならない。もっといえば、事務事業の個々の評価・改善シートはそれぞれ完璧なほどによくできているのだが、それらを横断的に捉えた評価がみえてこないのが残念である。理想的には、事業間の隙間を埋める部分への内部評価もあってほしかった。

しかしながら、再三述べたが、昨年度の自己点検・評価の結果を違うことなく事務事業に生かした結果が本年度の事業個々の指標達成に表われている。本年度の事務事業の内部評価もそれと同様、昨年度の結果を生かしたものとなっていて市教委及び事務局の尽力は高く評価できる。

おわりに

佐世保市教育委員会は、2004 年 6 月 1 日の事件を忘れることはできない。むしろ、その痛ましく悲しい事件から学んでいく、強固な意志をもつ委員会となっているし、さらに新しい時代に向けて、現状を厳しくみつめ克服し、細部にわたる施策を倦むことなく前進させてきている。その前進がさらに力強くなるために、「自己点検及び評価」が年々、欠かすことのできない重要な要となっていくはずである。それはすでに一昨年度から昨年度への委員会活動の充実に顕著に現れてきている。

佐世保市教育委員会の責任ある仕事の成果が公開され、佐世保市教育方針とともに市民の目に触れることが多くなればなるほど、その方針の確かさが証明され、方針の実現に近づいていくことになる。佐世保市教育委員会の本年度の自己点検及び評価は、「佐世保市教育委員会の自己点検及び評価」元年と呼ぶにふさわしく適正である。

注

注 1) 学校(幼稚園を含む)訪問 (VSA・SA・A・B・C・その他) はつぎの表 5. 表 6. 表 7 のとおり
 となっている。

表 5 H20 年度 佐世保市教員委員の小学校訪問 (延べ 34 校) 一覧

N. O.	小学校名	VSA	SA	A	B	C	その他
1	宮						6 月 27 日
2	三川内						7 月 25 日
3	広 田						6 月 27 日
4	花 高						
5	早 岐						
6	江 上						
7	針 尾						
8	大 塔						
9	黒 髪						
10	日 宇						
11	天 神				7 月 14 日		6 月 27 日
12	港						6 月 24 日
13	福 石				7 月 14 日		
14	木 風						6 月 24 日
15	潮 見						
16	白南風						6 月 25 日
17	小佐世保						6 月 30 日
18	祇園						
19	山 手						7 月 2 日
20	烏帽子分校						
21	春 日			6 月 9 日			
22	清 水						
23	大久保			7 月 9 日			
24	金比良						
25	大 野			11 月 25 日			6 月 24 日
26	柚 木						11 月 28 日
27	世知原			11 月 11 日			6 月 23 日 6 月 27 日
28	赤 崎						
29	船 越						6 月 17 日

30	庵 浦						6月18日
31	俵 浦						
32	日 野						
33	黒 島					6月2日	
34	浅 子			6月3日			
35	相 浦						
36	高島分校						
37	相浦西						
38	大崎分校						
39	中 里			11月19日			
40	皆 瀬			6月10日			6月27日
41	吉井南			7月8日			7月1日
42	吉井北	6月11日					6月26日
43	宇 久						
44	神 浦						
45	小佐々			11月26日			7月11日
46	楠 栖		11月27日				7月1日
	合 計 34 校	1 校	1 校	9 校	2 校	1 校	20 校

表 6 H20 年度 佐世保市教員委員の中学校訪問（延べ 25 校）一覽

N. O.	中学校名	VSA	SA	A	B	C	その他
1	宮						
2	三川内						
3	広田						6月19日
4	早岐						6月26日
5	東明						
6	日宇			10月22日			
7	崎辺						
8	福石			11月21日			
9	山澄						
10	旭			7月3日			
11	花園				10月29日		6月20日
							7月30日
12	清水						6月20日
13	光海			10月15日			6月20日

14	愛宕		11月18日				
15	野崎						
16	黒島						
17	浅子			(6月3日)			
18	日野				11月2日		
19	相浦				11月12日		
20	中里			11月14日			
21	大野						10月20日
22	柚木						
23	吉井			9月24日			6月27日
24	世知原						6月25日
							10月26日
							11月4日
25	小佐々				10月9日	7月4日	
26	宇久			10月30日			
	合計 25 校		1 校	8 校	4 校		12 校

表 7 H20 年度 佐世保市教員委員の幼稚園訪問（1 園）一覧

N.O.	幼稚園名	VSA	SA	A	B	C	その他
1	三川内						
2	針尾						
3	天神						
4	白南風						
5	中里						
6	世知原						11月30日
7	小佐々						